

平成 16 年度 事 業 報 告

津 曲 学 園 法 人 本 部

1. 財政関係

平成 16 年度の予算では法人全体の収支差額は+276 百万円と改善された。主な原因は、幼稚園跡地売却差額と経費節減にあった。

2. 人件費関係

- (1)雇用保険へ高等学校・中学校・幼稚園の教育職員が 9 月から加入し、学園負担分が 723 万円増加した。
- (2)勤勉手当の年度末を廃止し、夏期 2.53 か月、年末 3.0 か月計 5.53 か月とし 15 年度より 0.3 か月減額した。
- (3)世帯手当を扶養手当と名称変更し「戸籍上の世帯主であるもの」の手当月 13,000 円を 10 月から廃止した。
- (4)住宅手当の「世帯手当を受けている職員」手当月 16,000 円と「前各号以外の職員」手当月 10,000 円を 10 月から廃止した。
- (5)退職金規程改正を検討し、3 月末の理事会で決定した。現在各校への説明会が終了。

3. 規程関係

(1)寄附行為改正

私立学校法改正に伴い、文部科学省への事前相談後、寄附行為変更認可申請を行い、認可された。

(2)就業規則

- ①勤勉手当支給規程の改正を行った。
- ②旅費規程の改正を行った。
- ③通勤手当支給規程の改正を行った。
- ④育児休業規程の改正を行った。
- ⑤介護休業規程の改正を行った。

(3)資産運用に関する内規を制定した。

4. 施設関係

学生・生徒・園児が安心して活動・利用できる環境整備の工事を中心に行った。また相次いで来襲した台風被害の復旧工事も追加された。

その他の主な工事では、大学の博物館実習室改修工事があげられる。

5. 研修会関係

(1)第 31 回新規採用者職員研修会

4 月 19(月)～20 日(火)の日帰り 2 日間、各校見学及び本部で行い、特別参加 2 名を含む計 12 名が参加した。

(2)第 28 回管理者研修会

8 月 10(火)～11 日(水)の 2 日間「マリンパレスかごしま」で行い、50 歳未満の係長から新任課長は宿泊研修となり、役職者等計 58 名参加した。

(3)経理交換研修

本部経理課職員 1 名と大学会計課職員 1 名の交換研修を 2 ヶ月に渡り実施した。

6. その他

(1)大学業務合理化対策(継続中)

(2)給与システム改善(継続中)

以上本部

鹿児島国際大学大学院 経済学研究科

【教育方針】

経済学研究科では、学問的・実践的能力の養成に主眼を置いて、誠実で穏健な実力ある人材の育成に教育の目標をおいた。また、近年の学術研究の進展や急速な技術革新、社会経済の高度化、国際化、高度情報化等に伴い、創造力豊かな優れた人材の養成と国際的にも貢献できる高度な学術研究の推進に対するニーズに対応することを教育方針とした。

【重点施策】

- ①**教育・研究の重点施策** 地域経済がその独自性を発揮しつつ成長・発展していくために、経済・経営理論の総合的な探求とその応用展開を図った。
- ②**学位授与** 修士学位5名、博士学位2名（課程博士1名，論文博士1名）が授与された。
- ③**三大学院シンポジウム** 札幌大学・沖縄国際大学・本学の三大学院によるシンポジウムを開催し平成16年度は本学で実施した。
- ④**学生募集計画** 平成17年4月入学の入学試験結果は、修士課程募集定員10名に対し推薦・一般・社会人・外国人の合計で24名の志願があり20名を合格とした。また、博士課程募集定員5名に対し、一般・社会人・外国人の合計で4名の志願があり、3名を合格とした。
- ⑤**施設・設備計画** 自習室は、修士課程21名分、博士課程11名分が設置されている。

福祉社会学研究科

福祉社会学研究科では、社会福祉分野における高度専門職業人（指導的ソーシャルワーカー）及び研究者の養成を目的にして、以下のような教育・研究活動を展開した。

- ①平成16年度の福祉社会学研究科在籍大学院生は、1年次7名、2年次9名（うち休学1名）であった。その他に研究生2名を受け入れた。
- ②修士課程授業科目のうち、平成16年度は「主要学科目」7科目、「関連・基礎科目」10科目、「社会福祉研究演習科目」5科目を開講した。
- ③平成16年4月から1年間、大学院プロジェクト研究「鹿児島市地域支援子育て支援事業に関する調査研究」に8名のメンバー（大学院生5名及び教員3名）で取り組み、その成果を報告書にして公表した。
- ④本研究科の教育・研究活動に関する自己点検評価作業をすすめた。研究科会議において自由討議方式での検討を複数回行い、その結果を次年度作業に引き継ぐこととした。
- ⑤平成17年度大学院入学試験（前期・後期）を実施し、合計9名の合格を決定した。内訳は、「一般」5名、「社会人」3名、「外国人」1名であった。
- ⑥大学院の教育・研究活動に携わるスタッフを充実させるために、適切な専任教員の新規採用および兼任教員の確保について研究科会議で協議を重ねた。

国際文化研究科

高度な言語コミュニケーション能力・情報処理能力、および国際的視野に立った異文化理解・自文化理解能力を養成し、国際性と地域性の両面において指導的な役割を担いうる専門的職業人を育成するとともに、高度な学術研究の推進にも貢献できる研究能力と豊かな学識を備えた研究者を養成する。

【重点施策】

国際文化研究科は、平成16年4月に開設された。したがって、設置時における基本計画・教育課程に基づき、その実現を期した。

①教育・研究について

上記の教育方針を達成するために、教育内容については4分野を設けた。

すなわち、国際言語分野・情報言語分野・比較文化分野・日本アジア文化分野の4分野である。国際言語分野・情報言語分野の講義・演習の受講する学生が少数で、偏りがみられた。

②セメスター制による4月・10月入学制度、早期修了制度の採用

平成16年4月入学者は募集定員10名のところ、12名が志願し、12名合格。

10月入学は外国人留学生が4名、一般入学が1名。もともと、この外国人留学生は、4名とともに学部のセメスター制によって秋期卒業(9月)であった。

③早期修了制度の採用

早期修了を希望した学生は、10月入学の4名であった。入学時の評価に加え、1期修了段階での学習成果を評価した結果、3名にその資格を認めた。

鹿 児 島 国 際 大 学 経 済 学 部

【教育方針】

経済学部は、これまでの伝統をもとに、種々の現実問題に対処できる学生を育てることを目標としているだけでなく、学んだ知識をもとに、社会にでも積極的に活躍できるスペシャリストを養成するための理論と実践の場を提供している。

【重点施策】

1. 教育・研究の重点施策

①経済学部がもつカリキュラム内容にも沿っているが、本学部では、セメスター制の導入、1年生前期に新生ゼミナールを開設したこと。専門科目では、両学科ともに基本科目を置き、複数のコースを設けた。また、その他の特色として、必修ではないが必ず履修登録し受講しなければならない履修指定科目を設置したことである。他学部、他学科の科目も選択できる自由選択枠(関連科目)を設け、一部を教職資格や司書・社会教育主事等の資格に関する科目に充当することも可能となり、学生の資格取得をさらに促すことができた。

②本学部の基本姿勢は、グローバル化する経済とそこで活動する企業を取り巻く環境との相互依存関係を明らかにし、幅広い知識と経済学全般にわたる原理とその応用の修得を目指してきたことである。

福祉社会学部

1. 福祉社会学部では、カリキュラムにしたがって授業を実施した。当然のことであるが、これが、質量ともに「事業」の主要なものである。

2. 1を補足する必要があるものとして、次のような実習関係が挙げられる。

a 福祉関連資格取得のためにも必要とされる教科目のなかで行われる実習
老人福祉施設における実習。身体障害者福祉施設における実習。精神障害者療養・福祉施設における実習。いずれも施設側との事前連絡会、巡回指

導、事後反省会を含むものである。

- b 同様に、児童学科関係では、保育士資格や幼稚園・小学校教諭免許の取得のために必要な実習を、事前・事後の連絡・検討会・巡回指導を含めて実施した。
 - c 中・高校教員免許取得のための教職糧は、他の学部と同様である。
3. 本学部紀要「福祉社会学部論集」を1～4号（4回）を刊行した。
 4. 本学部「研究委員会」主催講演会の実施
 - ①福田正臣氏（なぎさ診療所長）「日常生活の医学」
 - ②2005年3月定年退職の3教授による合同最終講義
 5. 採用人事として以下の教員採用を行った。
 - ①家族社会学などを担当する現代社会学科の教員
 - ②社会福祉援助論等を担当する社会福祉学科の教員

国際文化学部

国際文化学部では、学部開設時(平成12年)に掲げられた目標を具体化して準備された、二学科四コースのカリキュラムにしたがって展開された。

具体的には、言語学の基礎理論やコミュニケーション能力の修得、および人間文化の多方面に渡り開設された科目を、学生個々の興味・関心にしたがった学習が進むように、可能な限り自主的な科目履修を促すことに努めた。また、現地研修を中心とする外国語集中コース、文化理解や外国語学習のための現地体験学習、および、日本語・外国語によるディベートまたはスピーチ・コミュニケーション学習により、実践的応用力を養うことに努めた。その成果の一端は、鹿児島県教員採用試験における二名の『英語』教員の採用として結実した。あるいは、本学部卒業者の大学院への進学が群を抜いて多かったことも学部教育の到達点を示すものとして確認できたところである。

本年度の事業のもうひとつの柱は、開学部以降の4年間を振り返り、到達点の確認と問題点を洗い出すことであった。明らかにされた問題点は多様であるが、次年度とのかかわりで次の二点が重要である。

1. 中途退学者と卒業延期者が合わせて入学者の三割近くに達し、学生の大学生活へのコミットメントに問題があったこと。
2. 学習を通じて獲得した各種能力が社会生活を始めるうえで十分に効果を発揮したとは認めがたいこと。すなわち、本学部卒業生ゆえの就職に結びつく姿が描ききれないこと。

鹿児島国際大学短期大学部

1. 短期大学部への進学者減少という近年の動向の原因分析と、その対策の検討をおこなった。
2. 魅力ある学科づくりと、学生が入学したことに意義を認めることのできるような成果をもたらす、カリキュラムと教育の改革に向けた議論の積み上げを行った。
3. 情報文化学科においては、近年の学生の学力低下の問題をとくに日本語能力の不足と受け止め、日本語能力を高めるためのプログラムを強化した。具体的には、昨年まで2単位だったものを2コマ、4単位に増やし「南日本新聞」の社説を徹底的に読み込ませて、その感想を新聞に投稿させた。その結果、数多くの学生の投稿が新聞に掲載され、そのことがまた学生の文章を書くことへの意欲を育てることに効果を上げることができた。
4. 学生に働くことの意欲と、人生に積極的に向き合う姿勢を育てることを目標に、地元で活躍している人々を招いて講演してもらう「キャリアデザイン講習

- 会」を、情報文化学科ではカレッジライフの時間を利用して開催した。
5. 音楽科では平成 15 年度末に開いた非常勤講師を含む FD 懇談会での討論を基礎に、16 年度は積極的な授業改善の取り組みを教員各自が進めるように方針を打ち出した。
 6. 全学的に行われたパイロット授業（授業公開）に対応して、音楽科ではより積極的にそれを受け止めて音楽科独自でいくつかの科目の授業公開を行い、授業改善の方法を議論した。
 7. オーケストラと吹奏楽のレベルを引き上げるため、外部講師として指導実績を上げている著名な大阪淀川工業高校の指導者を招いて、その指導を受けた。さらに諸行事に吹奏楽を参加させることによって、演奏に対する学生の目的意識を引き出すようにした。
 8. 年度末の 3 月に、情報文化学科、音楽科の全教員が集まって「短大教育を考える会」という名称で一年間の教育活動をまとめ、現在の短大部の教育のあり方について問題点を洗い出すとともに、今後の改革の方向を検討した。

学生・生徒募集計画

2007(平成 19)年度への大学全入・定員割れの厳しい状況を迎える中、学生定員の確保を最大の課題と捕らえる全学的な認識のもとに、本学では学長及び各学部長との綿密な連絡調整を行ないながら入学者選抜試験実施や学生募集活動等に関しては、主として入試委員会が統括し、的確な方針決定と柔軟な対応のもとにすべての教職員が協力して具体的に推進している。

今後の少子化や高校の生徒減少・生徒数の推移の状況や学校の統廃合・学科再編などの情報を的確に予測し把握しながら、高校をはじめ幅広く受験生・保護者等の進路志望状況や志望動向等の情報収集に努め、多面的に分析しつつ適切な状況判断のもとに入試制度の改革や入試の実施・募集活動等を積極的に推進した。

1. 入学者選抜試験

2005(平成 17)年度の入学者選抜試験に当たっては、本学の求める学力、能力を評価基準にして選抜することに留意した。学力試験のほかに、人物・意欲を評価する AO 入試、推薦入学試験等出願資格を定めて入学者選抜試験を実施した。

高等学校からの進学者以外の者に対して、大学の門戸を開放する道として、全学部・学科で外国人を対象に外国人留学生入学試験や帰国子女の教育問題に対処するために帰国子女入学試験、さらに一般社会人に対しては社会人入学試験を実施した。

また、本学短期大学部卒業者や他大学および短期大学からの入学希望者に対して編入学試験を実施した。18 歳人口が減少を続ける中で、学部、学科の理念・目的を達成し得る学生を確保する。また、受験者数の減少に歯止めをかけるために、次のような多様な形態による入学者選抜試験を実施した。

(大学)

推薦入学試験（指定校、一般、同一学園推薦入試）

一般入学試験

[前期日程]（一般、大学入試センター試験利用、大学入試センター試験利用入試(専門高校・総合学科卒業生特別選抜)）

[後期日程]（一般、大学入試センター試験利用入試）

その他の試験（AO入試、外国人留学生、帰国子女、社会人、編入学試験）

(短期大学部)

推薦入学試験（沖縄指定校、一般、同一学園推薦入試）

一般入学試験（B方式・特待生、大学入試センター試験利用、C方式入試）
その他の試験（AO入試、外国人留学生、帰国子女、社会人、専攻科入試）

2. 広報活動

学生募集のために、本学は、多様な方法を用いて、受験生、高校教員、保護者、社会へ情報を提供している。大学独自に作成している大学案内、入試ガイド・入試要項、大学広報紙と受験雑誌・受験情報誌、新聞、テレビ、インターネットなど各種媒体を通しての量的な広報・広告と入試説明会（進学相談会）、オープンキャンパス、高校訪問、高大連携に係わる出張講義、電話やインターネットなどによる受験生、高校教員、保護者等に直接情報を伝える個別的な方法でより効果的な広報活動に積極的に取り組んだ。

・間接的な方法

2005(平成 17)年度大学案内から、受験生に各学部・学科の教育理念や実際の教育研究内容をよりの確に理解してもらうために、現在行っている本学の取り組み、教育課程、入学から卒業までの学生支援体制、スキルアップ講座、キャリアデザイン等の概要をまとめた大学案内パンフレットを作成し、より具体的な情報を受験生に与えることができるようにした。

その他の広報媒体は下記のとおりである。

- ・受験雑誌掲載（進学リクルートブック、蛍雪時代、九州地区大学・短大進路ガイド、日経進学ガイド、進研プレス、ドリコムブック……など）
- ・新聞広告（南日本新聞、宮崎日日新聞、熊本日日新聞や九州各県の地方新聞、朝日新聞、西日本新聞、読売新聞等への突き出し、連合広告）
- ・ポスターの駅貼り、高校への募集要項・シラバス・ポスター等の送付、ホームページによる情報提供、大学広報誌「みなみ風」毎月送付

・直接的な方法

大学の情報を直接受験生や高校教員、保護者に伝え、また種々の質問に答える情報交換の場として、入試説明会（進学相談会）、オープンキャンパス、高校訪問、出張講義、高校主催の進学説明会や、PTA 研修視察や高校生の進路学習としての大学訪問等がある。また県大学ガイダンスセミナーや県短期大学シンポジウムなど、高校や他大学の教員との直接の情報交換ができるので積極的に参加している。これらの行事のスケジュールおよび参加者などは次のとおりであった。

①入試説明会(進学相談会)

業者主催の入試説明会(進学相談会)には県内 10 会場、九州各県 22 会場に参加した。

(その他資料のみの参加 5 県の 10 会場)、本学の相談コーナーへは多数の受験生、高校教員、保護者の相談があった。また、各地の入試説明会(進学相談会)に参加した教職員は、時間の許す限り、現地の高校を訪問して本学の PR に努め、高校側から生の貴重な要望や情報を得た。ここで得られた情報は、入試改革に大きく役立った。

その他本学主催の入試説明会(高校教員対象) 県内 4 会場と宮崎、熊本、沖縄県の 3 会場や本学 OB 高校教員との教育懇談会を県内 3 会場、また進学説明会(受験生・保護者対象)を 3 会場で実施した。

②オープンキャンパス

本学の教育の現状と成果を受験生・高校教員・保護者に正しく伝え、また受験生に施設見学や模擬授業・体験学習等を経験させることによって大学の雰囲気

肌で感じさせ、是非本学に進学したいと言うようにしたいと、学生も参加して全学挙げて取り組むオープンキャンパスを夏(8月)と秋(10月)の2回実施している。

実施内容は、進学・入試相談、学部・学科紹介、学生生活相談、就職関係相談、模擬授業、音楽科レッスン公開、体験学習コーナー、キャンパスツアー、大学紹介ビデオ上映、サークル活動や海外研修の展示、在学生とのフリートーク等の体験型のプログラムで実施し、参加者は次のとおりであった。

8月	高校生 457名、保護者 81名、教員 5名、その他 38名	計 581名
10月	高校生 138名、保護者 19名、教員 0名、その他 30名	計 187名

③高校訪問

高校訪問は、大学の教職員が直接高校の教職員と具体的な情報交換を通して、相互理解と高大の連携を図ると同時に大学の教育内容・教育課程や研究成果等や訪問校の在学生の状況など諸情報を提供し、また高校の教育の現状や進路志望の状況などの情報収集・交換と交流を深める絶好の機会としても重要である。

今年度は、前年度の入試実績と問題点を整理し、高校訪問の趣旨を個別的、具体的に検証しながら、高校との信頼関係を構築するために継続して実施した。

高校訪問 県内延べ 366校、
県外福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、沖縄延べ 639校

④その他

高校への出張講義 39校、高校依頼進学説明会 13校、PTA 研修視察や高校生の進路学習としての大学訪問 28校。

このような広報活動を通して、本学の特色を紹介する日常活動と不断の工夫は欠かせない。いずれも本学の将来への可能性を秘めた、質の高い多くの受験生の入学を促す方法として、2004(平成 16)年度も多様な学生募集の強化と充実を図った。

【改組計画】

1. 平成 16 年度事業報告
現在経済学部の改組を検討中であり、委員会を設け、審議を行っている。

【施設・設備計画】

1. 平成 16 年度事業報告(設備関係)
 - ① 4号館 LL 教室の機器の入れ替え(パソコン化)
 - ② 新入試システムの構築(C/S型への変更)
 - ③ 図書館の喫煙室をサイバールームへ改造

【その他学校における重点施策】

1. 平成 16 年度事業報告
 - ① パイロット授業の実施
平成 17 年度からの全学的な授業公開を前提に、16年度はパイロット授業(実験公開授業)を実施。

鹿 児 島 高 等 学 校

【教育方針】

1. 校訓「謙虚礼節」の精神に則って、豊かな教養と情操、強い体力の育成に努め、誠実で清潔な人格を培う。
2. 校訓「克己遂行」の精神に則って、様々な学習活動に積極的に挑戦し、個性や能力の啓発に努め、自らの人生を創造的に生きる力を培う。
3. 教師は、徳育・知育・体育の調和的な推進に努め、生徒の主体的な成長を積極的に支援する。

【重点施策】

1. 教育指導の充実

- (1) 「情報公開」と「自己評価」による透明性の確保
 - ① 「教育実践第2号」を発行し県内全高等学校、全中学校へ配付
 - ② 学年、教科、委員会の各組織の「自己点検・自己評価」を実施
- (2) 教科教育法の推進・拡充
 - ① 教科教育法研究委員会による全校生徒を対象にした学習・生活実態調査の実施（12月21日）及び分析結果を基に、学習意欲の向上、基礎学力の定着、学習習慣の確立等を図る手だてを検討。
- (3) 学科の特色を生かした教育指導
 - ① 3年英数科文系の芸術2単位を英語、国語それぞれに1単位ずつ配当し主要教科の学力アップを図った。
 - ② 教務便覧の見直しにより、従来の5段階評定の段階区分を‘めやす’とし英数科、普通科選抜クラスの設置目的に沿った定期テストの出題を可能とした。
 - ③ 英数科職員室を設置し、英数科の進路指導体制を充実させた。
 - ④ 普通科学科主任を置き、普通科教育指導体制の充実を図った。
- (4) 全教職員（学年・教科）の協力体制の確立
 - ① 学年会、教科会の定例化により意思疎通を図った。
- (5) 進路の保証：3力年を見通した計画的・継続的指導
 - ① 進学指導室を中心に進路講話、進学情報誌のクラス配付、三者面談、模擬テスト実施計画、補習計画、センター試験対策及び個別試験対策等の年間進学指導実施計画を作成し、全教職員で進学指導に当たった。
 - ② 就職指導室を中心にキャリアガイダンス、進路相談、就職訓練（早朝、夏季休業中）等の年間計画を作成し、担任、就職指導室が就職指導に当たった。
 - ③ 学業遅滞生徒の夏季休業中の特別指導を実施した。
 - ④ 出席の常でない生徒に対する長期休業中及び入試休み期間中の事前指導を実施した。

2. 生徒指導の充実

- (1) 今日の課題への取り組み
 - ① 1・2年生女子を対象にした「性教育講座」の実施（7月14日、12月20日）
 - ② 1年生を対象にした禁煙教育講話（6月3日）
- (2) 基本的生活習慣の確立
 - ① 遅刻ゼロを目ざし遅刻者に対し遅刻者カードの発行

- ②遅刻5回以上の生徒に対する担任、学年主任の指導
- (3) 社会的マナーの育成
 - ③教職員及び三弧会の生徒による登校指導の実施
 - ④全校朝礼時の定期的な髪型服装検査及びマナー指導の実施

3. 保健指導の充実

- (1) 生徒・教職員の健康・安全の維持・増進
 - ①5月に全生徒、7月に心臓病要管理者、9月に2年生修学旅行参加生徒及び1年生1日長距離走参加者、又原則として毎月部活動生徒を対象に健康相談を実施
 - ②教職員を対象にした定期健康診断の実施
 - ③生徒指導室と共同で性教育への取り組み
- (2) 校内美化の推進
 - ①日常の清掃活動の徹底指導
 - ②各部部长・監督に対する部室の整理整頓の徹底指導

4. 生徒の確保と定着

- (1) 学校長による市内及び近郊の中学校訪問(4月)
- (2) 中学校訪問打合せ(年6回、5月・7月・9月・12月・1月・2月)
- (3) 担当者による中学校訪問(年6回、同上)
- (4) 1日体験入学(8月21日実施)
- (5) 生徒募集プロジェクト委員会(年2回、4月・10月)
- (6) 広報パンフレット「ZigZag」の発行(年2回、6月・11月)
- (7) 学校案内の発行(9月)
- (8) 広報パンフレット「合格速報」(3月)と「がんばれ受験生」(入試時)の発行
- (9) ポスターの発行(体育祭・文化祭、進路・就職・芸術祭)
- (10) 中学校における上級学校説明会への参加(約90校)
- (11) 本校主催の高校説明会開催(県内5カ所、市内・川内・始良・国分・加世田・鹿屋)
- (12) ホームページによる学校紹介の充実

以上 鹿児島高校

鹿児島修学館中・高等学校

【1】教育方針

建学の精神に則り、全人教育を基調として、社会に寄与し得る有為な人材の養成に努めた。

- (1) 生徒の個性・能力を伸張し、自主性・独立性・創造性の涵養に努めた。
- (2) 自由と規律・寛容と協調の心の育成に努めた。
- (3) 進路実現のための学力の養成に努めた。
- (4) 健全で豊かな精神を養い、人生の真理と幸福を追求できる人間の育成に努めた。

【2】重点施策

(1) 教育・研究の重点施策

- (1) 各部・学年・教科間の連携を図り、校務が円滑に進められ、教育活動に専念できる環境作りに努めた。
 - ① 学年主任会・教科主任会を定例化(週に1回時間割に組み込む)し、そこでの議題等を学年会・教科会に還元し、議論した。
 - ② 学校活性化のための各分掌に対する意見・要望・提案のアンケートを学期1回実施し、検討・改正した(7/1、12/1、3/1)
- (2) 家庭・近隣社会・卒業生などとの密接な連携を保ち、効果的な教育活動を推進した。
 - ① 週報の発行②文化祭・体育祭の案内・応援団の練習計画の案内を近隣社会に配布
 - ③ 夏季休業中にOBトークを高校生に実施した(8/23)
- (3) 学校行事を効率的に運営し、授業時数の確保をした
 - ① 第二土曜日のみ休業とし、その他の土曜の授業も実施した。
 - ② 45分8限授業を実施し、授業時間の確保をした。
- (4) 各研修会を企画・提供し、教職員の資質の向上を図った。
 - ① パソコン講習会を各学期の定期試験の午後実施した(9/2、10/12、3/2)
 - ② 職員研修会を実施した(6/18)

(2) 進路指導の重点施策

- (1) 生徒一人ひとりが主体的な進路選択ができる力をつけるための指導を工夫した。
 - ① 高1生に1学期進路適性検査を実施した(10/1)
- (2) 大学入試の現状や展望についての的確な進路指導ができるようにした。
 - ② 進学塾講師による進路講話を生徒・保護者に実施した(5/13、6/22)
- (3) 生徒の学力を向上させるために、学習習慣を身につけさせ、自学自習ができる力を高めていくように指導した。
 - ① 各学期に宅習調査・進路希望調査を実施し、それに基づいた進路相談を実施した。(5月、10月、1月)

(3) 生徒指導の重点施策

- (1) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、よりよき人格の形成と品格のある修学館生を育成する努力をした。
 - ①朝自習・朝補習・正規の授業等の遅刻者に対し「遅刻届兼入室許可願い」を教頭経由で提出させ指導を徹底した。
- (2) 校則や社会ルール・交通規則等を遵守させ、規則正しい生活態度を身につけさせる努力をした。
 - ①毎朝 7:35～8:05 に校門とトワバール前(校外)での交通・服装指導等を実施した。
 - ②西警察署職員による交通安全教室を一学期に実施した。(5/13)
 - ③始業式ごとに服装等一斉検査と生徒指導部長講話を実施生徒を啓蒙した。
 - ④消費生活主張講座(中高)の実施。(10/26)
 - ⑤昼食時間、職員が二人一組で校舎内外の巡視をし、危険箇所をチェックし、生徒指導を実施した。
- (3) 他人への思いやり・知性あふれる心豊かな生徒の育成に努め、特に、生徒会活動やボランティア活動の充実を図った。
 - ①中1のフレッツマソセミナーでの霧島青葉園での福祉活動、車椅子の贈呈。(4/13)
 - ②各種ボランティア活動への積極的参加。(主に長期休業中)

(4) 保健安全指導の重点施策

- (1) 保健的・学校行事等の効果的運営により、生徒・職員の実態を把握して事後指導の徹底を図り、生涯に渡っての「健康管理能力(疾病予防、健康の保持増進)」を育成した。
 - ①各種定期検査の実施 ②学校保健委員会の実施(6/23)
 - ③高3生への「エイズ講話」の実施(12/9) ④覚醒剤講話(11/25)
- (2) 体育的・学校行事等の効果的な推進と、体育・スポーツ活動の継続実践により、粘り強く逞しい心身を育成し、生涯に渡る健康づくりの基盤になるよう努力した。
 - ①一日遠行の実施(中1・2は健康の森公園への徒歩往復中3高2は、桜島一周 11/2)
- (3) 防火・防災に対する知識と理解を深め、災害発生時に安全かつ冷静沈着な判断や行動のできる能力を育成した。
 - ①一学期に防災避難訓練を実施し、消防署職員による指導講話を依頼した(6/2)
- (4) 環境整備並びに美化清掃の意識高揚を図り、より豊かな人間性を培う努力をした。
 - ①学期ごとの大掃除、毎日の清掃時における教師と生徒協同の作業の実施。

【3】平成16年度生徒募集報告書（平成17年度入試）

	項 目 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1	生徒募集対策委員会	○											
2	前年度入試, イベント等の分析	○											
3	入学者の分析	○											
4	新入生に対するアンケート調査	○											
5	塾の分析, 研究		○										
6	志願者の推移, 分析		○										
7	本年度の戦略構築, 実施計画作成		○										
8	競合校の調査		○										
9	受験者情報の集約						○						
10	学校説明会, オープンスクールの実施計画						○	○					
11	塾及び学校訪問							○					
12	保護者への学校紹介のポスター配布依頼							○					
13	学校案内・生徒募集要項等の作成							○					
14	ホームページに学校説明会の案内							○					
15	学校説明会, オープンスクール								○				
16	I N Tの開催(生き生きとした生徒を入学させる対策本部)								○				
17	学校説明会お礼のメール								○				
18	ホームページに学校説明会のお礼								○				
19	塾及び学校訪問									○			
20	願書受付時のマナー									○			
21	クリスマスイベントメール, DM									○			
22	中学校入試										○		
23	面接時のさりげないアピール, 宣伝										○		
24	入試当日の温かい対応										○		
25	合格発表時のおめでとうの直筆メッセージ										○		
26	ホームページの更新										○	○	
27	高等学校入試											○	
28	学校案内・生徒募集要項等の作成計画											○	

鹿 児 島 幼 稚 園

【教育方針】

本学園の建学の趣旨及び教育基本法・学校教育法・幼稚園教育要領に則り、園児の心身の発達の特長、地域の実態に基づき、鹿児島幼稚園の歴史と伝統を重視し、鹿児島国際大学の教育実習園であるという使命を重んじて、子ども一人一人が楽しい集団生活のなかで、健全な心身を培うことができるように、生き生きとした幼稚園教育の展開を目指す。

そのために、全職員が協力し教育目標達成に努力する。

- 一人一人を大切にされた教育（保育）に徹する
- 子どもの主体的な活動を促すとともに、創造性を豊かにする
- 基本的な生活習慣や態度を育て、豊かな心情を育む
- 家庭との連携を緊密にし、子どもの自立に向けた基盤を育成する

（１）教育目標

恵まれた自然環境を生かして、元気で、明るく、のびのびと活動する心豊かなたくましい幼児を育てる

（２）めざす幼稚園像

- 魅力ある親しみのある幼稚園
 - ・美しく明るい、楽しい雰囲気になった生き生きとしている幼稚園
 - ・幼児が期待を持って喜んで登園してくる幼稚園
 - ・明るいあいさつ・歌声・会話があふれる幼稚園
- 内容の充実した幼稚園
 - ・清潔・安全で、幼児が楽しく遊べる環境に配慮された幼稚園
 - ・使命感に燃え、常に創意工夫する職員による実践的な保育の充実した幼稚園
 - ・園児一人一人を大事にする幼稚園
- 地域に開かれた幼稚園
 - ・家庭との連携を緊密にして、保護者に信頼される幼稚園
 - ・地域の子育てセンターとしての役割を果たす幼稚園
 - ・地域の諸学校、町内会、施設等との密接な連携で、地域に愛される幼稚園

【重点施策とその推進状況】

重 点 事 項	推 進 状 況
(1) 子ども一人一人を伸ばす保育の充実 ①保育・指導体制の充実 ・学年主任を中心とした学年経営・学年保育の充実 ・発達段階や園児の個性を伸ばす保育の推進	・学年会の定例化による教材研究 ・各担任の個性を生かした保育を推進 ・学年での情報・教材の活用を推進 ・園の教育計画の見直し・作成

重 点 事 項	推 進 状 況
<p>②指導力の向上と資質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修、研究保育の充実 ・大学の指導者招へい ・記録に基づく実践的・累積的研修 <p>③預かり保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間にわたって実施 <p>(2) 家庭・地域と連携の強化</p> <p>①家庭との積極的な連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園の保育方針・重点等の浸透 <p>②未就園児及びその保護者への支援</p> <p>③子育て講演会・座談会の開催</p> <p>④教育相談の実施</p> <p>(3) 心の教育の充実</p> <p>①基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るいあいさつの徹底 ・礼儀正しい子どもの育成 <p>②異年齢での活動による仲間意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸行事の内容の工夫・充実 ・集団リズム・なかよしクラスの充実 <p>③絵本に親しむ活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ活動の実施 <p>④自然に親しむ活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花やミニトマト等の栽培 ・緑豊かな自然の中で情操を育む <p>(4) 保健・安全管理の徹底</p> <p>①園内での事故防止・安全指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設設備、遊具の安全点検 ・危険予知能力の育成 <p>②園バスの安全運行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バスコース」「お歩きコース」の安全確認 <p>③不審者侵入の防止及び防災体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部からの不審者等の確認 ・施設の保全・管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の定期的な園内研修 ・テーマを持った相互研修、大学などから講師を招へいして実施 ・保育週案、反省記録を生かした日々の保育の充実 ・平常日の預かり 1日平均37名 ・長期休業中の一日預かり 119名 <ul style="list-style-type: none"> ・園だより、学年だより、学級だよりの定期的な作成・配付 ・「子育て支援だより」の作成・配付 ・月1～2回の「ちびっこクラブ」の開催 ・年間7回実施(講師～国際大学の教授及び元幼稚園長等) <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ」「へんじ」「かたづけ」を重点にした生活習慣の確立 ・家庭との連携による指導の徹底 ・ともだち意識を育てる行事内容の工夫 運動会、綱引き、すもう大会、七夕まつり 夏まつり、なかよし発表会、いもほり、 やきいも大会等 ・職員による日々の絵本の読み聞かせ ・保護者の絵本の読み聞かせグループ「あかずきんちゃん」の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・稲やサツマイモの栽培・収穫 ・一人一鉢による花の栽培 <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の施設・設備の安全点検 ・「安全の日」の設定(園児を一堂に集めて具体的指導) ・登園・降園時の安全管理の徹底 ・交差点・園門での立しよう指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオカメラでのチェック ・避難訓練の定期的な実施 ・施錠・戸締まり・閉門等の徹底

<p>④健康教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する基本的な生活習慣の確立 ・一人一人に応じ健康の指導 <p>⑤食育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期にふさわしい給食の充実 ・給食委員会、管理栄養士との連携 <p>(5) 幼・保・小・中学校及び地域との連携</p> <p>①近隣幼・保育園(所)との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携による相互訪問 <p>②中学校からの体験学習受け入れ</p> <p>③地域との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬老の日にちなんだ交流 ・地域行事への園児の参加 <p>(6) 大学との連携及び教育実習の充実</p> <p>①国際大学生の教育実習の受け入れ</p> <p>②他大学生の教育実習の受け入れ</p> <p>③学生の保育体験・ボランティア活動の受け入れ</p> <p>④園外保育での大学への訪問・交流</p> <p>(7) IT機器の活用</p> <p>①パソコンの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園のホームページの充実 ・メールの効果的活用 ・園事務の効率化、適確な情報処理 <p>②園児のパソコン活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン室の整備・活用 <p>③大学情報処理センターとの連携・指導の依頼</p> <p>(8) 環境の整備・充実</p> <p>①施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭の充実 <p>②花と緑の環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員・園児一体で花づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・うがい・手洗いの徹底指導 ・毎朝の出席・欠席及び健康観察の確認 ・栄養管理士の献立に基づく完全給食 ・食事マナーの計画的指導 ・6ブロック間での相互研修 ・主任会(月1回)での情報交換 ・錦江台小及び本園で幼・小連携研修会 本園での研究保育に近隣幼稚園・小学校から15名参加(総数27名) ・和田中2年生19名が職場体験学習で来園し、終日学習 ・高齢者とのふれあい活動 (高齢者クラブや特別養護老人ホームから40名の出席) ・施設訪問(ハッピー園、慈眼寺園等へ) ・6月・9月・2月にそれぞれ2週間(4年生)の実習の実施 ・6月に観察実習(2年生) ・9月に保育指導法研修会の実施(2年生) ・本園卒園生は受け入れ(16年度～1名) ・運動会、発表会、夏祭りの大きな行事に大学生がボランティアで多数参加・協力 ・大学のフィールドワークで大学生との交流 ・園のHPを2週間毎に更新 ・保護者・大学等とのメールでの報告・連絡・相談 ・2階のパソコン教室に10台のパソコンを設置・整備 ・年長(5歳児)を中心にした使い方の指導・活用 ・「ドロンコ砂場」の新設 ・園庭にテント付きベンチを作成 ・花壇の整備 ・一人一鉢による花やミニトマトの栽培 ・グラウンドに卒業記念樹(サクラ)を植栽
--	--

3 鹿児島国際大学附属幼稚園としての伝統の創造

(1) 創立35周年記念行事等の実施

①創立35周年記念同窓会の開催

- ・ 8月17日(日) 本園リズム室で、50名出席
- ・ 40周年に向けて記念行事等の企画

②「鹿児島幼稚園音頭」の制作

- ・ 職員で合作し、同窓会の席で発表(歌・踊り)
- ・ 10月10日(月)の運動会で「親子ゆうぎ種目」として発表
- ・ 運動会の記念タオルに「鹿児島幼稚園音頭」を印刷・全家庭に配布

(2) 保育紹介の鹿児島幼稚園パンフレットの改訂版作成

- ・ 「ぴんくのくじら」の名称で、子どもにも親しまれるパンフレットの作成
- ・ 入園募集ポスターも本園独自を作成

(3) 鹿児島国際大学児童学科との交流・連携

- ・ 園内研修への講師として来園、保育についての指導助言
- ・ 園長、主任も大学の講義等に参加・協力

津曲学園事業部

【事業方針】

事業部は、学生・生徒のニーズに対応した商品を取り揃え利便性を中心に置く。また、各学校の消耗品等を一括購入しタイムリーに配給する。更に、安定した事業収益を上げ、各校に収益還元を行う。

【事業内容】

1. 不良在庫の処分

担当者交代を機に在庫の見直しを行い、公認会計士と協議し不良在庫の一層を削った。

2. 販売用品の充実

- ①学用品、事務用品、教育資材、印刷用紙、制服、その他商品の内容を見直した。
- ②体育服のデザイン変更(17年度変更)について検討した。
- ③体育服の仕入れ業者数を、1業者から2業者へ変更した。
- ④電子辞書、保険契約の教員への紹介を開始した。

3. サービス業務

- ①購買部窓口にホワイトボードを掲げ、連絡事項の徹底を図った。
- ②新入生登校日に購買部前で、体育服を試着して購入できるようし、好評を得た。
- ③山形屋と提供し、教職員向けの中元・歳暮・忌明け商品等の紹介で手数料の増加を図った。

4. コスト意識

- ①柔道着、剣道着の商品の相見積りで仕入れ値の見直しを実施した。
- ②経費支出の削減に努めた。